高西小だより

学校教育目標
夢を切り拓く
心豊かで
たくましい子ども

H23，11，30（水）　校長：古屋　NO15

フィンランドの教育環境と学力　そして　家庭学習の定着！

フィンランドは、経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）の国際学習到達度調査（ＰＩＳＡ）で世界トップレベルの成績をあげ、今でも各国からその教育に注目が集まっています。

今日の学力向上の背景には、当時２９歳の若さで教育大臣に就任したヘイノネン氏が大きく貢献したと言われています。彼は、９０年代に不況に陥り、失業率が２０％に達した際、大胆な教育改革に踏み切り、「教育改革をしない限り、フィンランドに明日はない」と言い切り、「教育は人という資源への投資」という考えのもとで改革を進めたそうです。国内総生産に占める教育支出の割合は、日本の３，５％に対し、フィンランドは６％、ＯＥＣＤ各国平均でも５％ありました。もともとフィンランドは、自然資源が少なく、輸入に頼らざるを得ない国で、母国語だけでは十分ではないので、言語学習の時間が多く、高校生になると四ヶ国語ぐらい話せるのが普通だそうです。

現在、フィンランドでは、教育現場への裁量権が認められ、担任の教師が自由に時間割や教える内容を決められるオーダーメイド型の教育が行われ、幼稚園から大学院までの教育費は無料。教材費や給食費もかからないそうです。ひとクラスの人数も３０人以下。点数主義でもなくランキングもありません。これらのことから、フィンランドの教育環境は大変恵まれているといえます。これは、北欧の地域性として、国が教育・文化・福祉に手厚い保護をしていることがベースとしてあるからです。その財源確保のための消費税は、第１位がアイスランドで２５．５％、続いてスウェーデン、デンマーク、ノルウェー、ハンガリーで２５％、６番目にフィンランドで２３％となっています。

さて、日本においてはどうでしょうか。フィンランドのような教育環境が保障されているでしょうか。一例を上げると、山梨県内の小、中学校では"きめ細やかな教育"を目指して、国に先駆けて少人数学級編成が導入されています。国の基準は４０人学級ですが、山梨県では、小学校１、２年生は３０人、中学校１年生は３５人を基準としています。さらに、今年の平成２３年４月からは、小学校３年生にまで範囲を拡げ、３５人の学級編成が導入され、（西小の３年生は３５人です。後１人在籍して、３６人になれば先生がもう一人つくのですが・・・）一歩一歩ではありますが、様々な教育条件が整備されています。しかし、願わくばフィンランドのように国として「人という資源」への投資という考えで教育改革を行い、将来にわたって日本を支える人を育てる教育を行ってほしいと思います。

一方、フィンランドでは、ＰＩＳＡで世界トップレベルの成績を上げたと同時期、職業訓練学校での銃撃事件が起こり、その前年１１月でも、高校で発砲事件が起こり、多くの人が亡くなりました。銃保有率が世界第３位という環境がその結果を生み出したとも言えます。日本においても、あの秋葉原事件をはじめ、悲しい事件が次々と起こっています。学力が世界一だから安全で生き甲斐のある国であるとは限りません。私たちは、「学力」という言葉に振り回されるのではなく、「学ぼうとする意欲」を醸成し、点数的な学力ではなく、全人的な「知育・徳育・体育」の育成を相互に連携し合う中で行っていくことが大事なのではないでしょうか。それが日本の教育の他国に誇れる教育原点でもあります。

さて、この度、その「知育」における基礎学力をより一層定着させるために、家庭学習の充実と習慣化を図る取り組みを行うことにしました。子どもたちが本来持っている「学ぼうとする意欲」を習慣化によって定着させることで、より一層の成果を上げることができると思います。家庭学習の充実は、保護者をはじめご家族の協力が不可欠です。別紙お知らせの通り取り組んでいきますのでご理解とご協力をよろしくお願いします。

「なぜ学ぶのか・・・それは、人生の選択肢を増やすため」・・・。いろいろな学びや体験をさせることによって、自分の夢や目標を持って生きていける子どもを共に手を携えて育てていきましょう。

北杜市放課後子ども教室「すこやかキッズクラブたかね」開催！

この事業は、放課後の子どもたちの安全で健やかな居場所づくりのため、小学校や地域、保護者の方々の協力を得ながら、学習やスポーツ、文化活動を行うために行われます。普段、農村改善センター等で行われているため、西小の児童は遠いのでなかなか歩いて参加できませんので、今回は、出前で西小に来ていただきました。児童館の児童を中心に40人ほど参加し、１億円じゃんけんゲームや新聞紙フリスビーをして楽しみました。（１１月１８日）

ワクワクドキドキの読書週間でした！

教頭先生のお話しに興味津々の4年生！

長～いさつまいもにびっくり！（お話会）

○学年ごとの読書パズル
○図書委員による紙芝居
○先生方の読み聞かせ
○先生方のおすすめの本の紹介ビデオ放映
○おはなしやさんの読み聞かせ
○おはなしやさんのお話会
○たかね図書館のビデオ紹介　○目指せ図書館読書名人　○しおりプレゼント　○図書くじ　○おすすめの本の絵の募集　○図書郵便　など、今年の読書週間は、盛りだくさんの取り組みが行われ、子どもたちの読書への関心が益々高まりました。今や、「図書室に来るの待っている」「そこにある本を紹介する」という視点ではなく、子どもたちが本来持っている興味関心を刺激し、心を揺さぶる取り組みが大事です。特に、おはなしやさんの皆さんには、業前の読み聞かせのみならず、今回もお話会に向けて事前からの準備や練習を通して心の残るお話会を行って頂きまして本当にありがとうございました。

「ゴミだけどゴミじゃない。それは、大切な宝物、思い出です！」

２４日（木）、明野町にお住まいの田沢憲さんをお迎えして、福祉教育の一環である福祉講話が行われました。田沢さんは、東日本大震災１ヵ月後の４月、岩手県に復興支援ボランティアとして参加されました。この講話で、多くの悲しみやつらさと共に、そこに生きる人々の力強さや絆等心打つ体験を子どもたちに伝えてくれました。

私は、今日の福祉講話で、去年までは、目の見えない人や耳の聞こえない人など、個人的な障害のある人たちだったけど、今年は、東日本大震災のボランティアを実際にやった田沢さんという人が来ると聞いて楽しみになりました。理由は，三月十一日の地震の後、テレビでは、震災のあった東北の様子や津波の様子が放映されていたけれど、身近な人から話を聞いたことはなかったからです。

今日の福祉講話で考えたことは、東北の人たちがすごく頑張っているということと、すごく大変なのに、お互いに助け合っているということです。東北で被災した人たちは、自分たちの生活が不便で大変なのに、ボランティアに来てくれた人たちを気づかって、食べ物を分けてあげている写真を見て、東北の人たちは、自分たちが大変だけど、感謝の気持ちを忘れないのはすごいと思ったし、自分ならできないと思いました。また、中学生が小学生の面どうをみたり、自分の家のそうじよりも他の人の家を優先できるのはすごいことだと思いました。

今日の福祉講話で、私は、今よりも、もっともっと東北の人のことを考えて、いろいろなボランティアをしたいと思いました。そして、東北の人をもっと応援したいと思いました。

６年　内藤　真由

福祉講話で田沢さんは、主に三つの気付いた事を話してくれました。

その中で、私の心にグサッときたのは、「ゴミだけどゴミじゃない」という事です。私にとって、ゴミは不要な物で、もう使わなくなった物です。しかし、被災地では、津波というこわいものがきて自分の思い出の品もずっと住んでいた家もぐちゃぐちゃにして、まるでゴミのようにしてしまいました。私は、「ゴミだけどゴミじゃない。」という言葉は、どんなにぐちゃぐちゃでも被災者の方には、一つ一つが思い出で大切な物なんだと思いました。

いつ来るかわからない地震に毎日ドキドキして暮らしている被災者の方々に私たちは直接ボランティアをする事は出来ないけれど、今、復こうへの道に進むためには、私たち全員がこまかいところからでも協力しようという気持ちを持つことが大事であると、田沢さんのお話しから強く感じることができました。

また、三月十一日の地震を少しだけでも経験した私たちは、田沢さんのお話しと助け合う大切さを忘れてはいけないことも強く感じました。

ありがとうございました。

６年　鈴木　志歩